



墨田区観光振興プラン

東京スカイツリー®を活かし、暮らしてよく、訪れてよい、「国際観光都市すみだ」をつくる
 <概要版> 平成27年4月



1. 計画改定の背景

(1) “すみだ観光”のこれまで ～東京スカイツリー®の開業を起爆剤とした国際観光都市の実現～

墨田区では、東京スカイツリーの開業とこれを踏まえた施策の展開を基本とする現行の「墨田区観光振興プラン」（平成20年1月）に基づいて様々な取り組みを行ってきました。

<これまでの“すみだ観光”の主な成果>

- ◆まち歩き観光の増加（まち歩きガイドツアーの参加者数の増加）
- ◆東京スカイツリーを起爆剤とした観光振興（回遊イベント実施、「すみだ まち処」開設、循環バス運行開始等）
- ◆国際観光都市づくり（公共サインの多言語化、日本政府観光局《JNT0》から区内3か所《「すみだ まち処」・吾妻橋・両国》の観光案内所が外国人観光案内所として認定）
- ◆8つの観光拠点エリアの形成
- ◆観光振興の推進体制の強化

(2) “すみだ観光”のこれから ～2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を見据えた観光振興～

これまでの方針を継承しつつ、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催決定といった社会動向の変化を踏まえ、以下の5点に特に留意しつつ取り組んでいくことが重要です。

<これからの“すみだ観光”に必要なこと>

- ◆「選択と集中」の考え方に基づく、観光振興の戦略的展開（「エリア」と「テーマ」の戦略的な絞込み）
- ◆2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を見据えた国際観光の強化（外国人観光客誘致＋国際交流促進）
- ◆安全・安心な観光地づくりの推進（災害等への備え）
- ◆編集による地域資源の磨き上げと新たなプログラムの創出
- ◆観光に関する人材育成と一元的窓口機能の強化

2. 目標とする観光のすがた

計画の目標：東京スカイツリー®を活かし、暮らしてよく、訪れてよい、
「国際観光都市すみだ」をつくる

計画期間：平成27～32年度（2015～2020）

《前期3年＋後期3年》

観光振興の基本理念：

- (1) ビジターズ・インダストリーの創出
- (2) 愛着と誇りの持てるわが街すみだづくり
- (3) 総力を挙げて取り組む観光まちづくり

観光都市づくりの視点：

- (1) 国際観光 ～グローバルな視点で未来を拓く～
- (2) まち歩き観光 ～時速1.5キロのまちづくり～
- (3) こだわり観光 ～多様化する観光ニーズへの対応～

観光振興の課題

- ① 墨田区の多様な観光拠点・資源の魅力を伝える必要がある
- ② 観光拠点・資源間の回遊性を高める必要がある
- ③ 多様な観光資源がもつ魅力の磨き上げ・再編集が必要である
- ④ 観光客が容易に情報を取得できる情報インフラの整備が必要である
- ⑤ 地域の観光を支える担い手・サポーターの更なる育成が必要である
- ⑥ 観光客に対する災害時対応の体制を整える必要がある

3. 基本戦略

戦略Ⅰ | 観光プロモーションの充実

- ◆認知度の向上、区内回遊促進のための更なる観光プロモーションの充実
- ◆海外に向けた情報発信強化、外国人観光客の受け入れ体制の構築等
- ◆近隣区や地方の自治体、国・東京都、民間事業者などとの広域連携による観光プロモーションの展開



戦略Ⅱ | 北斎・江戸文化の魅力の再発見・再編集

- ◆区内の博物館・美術館・資料館等の文化施設を核とした「すみだ文化ゾーン」の創出
- ◆北斎や、江戸からの文化（大相撲、墨堤の桜、隅田川花火、向島花街、隅田川七福神、向島百花園等）などを活用した観光プログラムの充実
- ◆「両国観光まちづくりグランドデザイン」に基づく資源の掘り起こし、磨き上げ、情報発信



戦略Ⅲ | 産業と観光の融合

- ◆「すみだ3M（スリーエム）運動」や「すみだ地域ブランド戦略」と連動した“ものづくり観光”の推進
- ◆“食”を活用した“まち歩き観光”の推進
- ◆商店街・商業施設等と連携した観光プログラムの充実等



戦略Ⅳ | 水都すみだの再生

- ◆観光舟運のより一層の活性化
- ◆本区の特徴である豊かな水辺空間と観光舟運による、水辺を核とした賑わいの創出（リバーサイドカフェの誘致や水陸両用バスも活用できるインフラ整備、北十間川と隅田公園の一体整備による観光回遊路の整備など）



戦略Ⅴ | 観光振興を支える基盤の充実

- ◆交通インフラ、情報インフラ、街並み・景観、バリアフリー等のハード面での基盤の充実
- ◆公共空間を活用した賑わい創出、観光客の受け入れ体制の強化、観光振興を支える担い手・サポーターの育成などのソフト面の取り組みの充実



国際観光都市すみだ

4. 基本施策

本プランの目標である「国際観光都市すみだ」の実現に向けて、5つの基本戦略に基づく28の基本施策を設定し、これらを実実に着手していきます。

基本戦略	基本施策	施策展開
戦略Ⅰ 観光プロモーションの充実	I-① 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会開催に向けた観光プロモーション	★海外における観光プロモーションの強化（発地での観光プロモーション） ★訪日外国人への情報発信（着地での観光プロモーション）
	I-② 他地域との広域連携による情報発信	★他地域との連携による観光プロモーションの展開 ★国や都との連携による観光プロモーションの実施
	I-③ 多様化する情報発信媒体の活用	★様々な媒体を活用した観光情報の発信 ★フィルムコミッションの推進
	I-④ すみだならではの魅力の発掘・再編集	★既存地域資源、既存のまち歩きコースのブラッシュアップ ★新たな観光資源やまち歩きコースの発掘・開発
	I-⑤ イベント情報の一元管理と情報発信	★区内で開催される各種イベントの情報を一元管理する仕組みの構築 ★各種イベントの情報を観光客が容易に取得できる仕組みの構築
	I-⑥ MICE*の誘致	★MICE誘致に関わる取組みの推進
戦略Ⅱ 北斎・江戸文化の魅力の再発見・再編集	Ⅱ-① すみだ文化ゾーンの創出	★区内の博物館、美術館等の文化施設の連携体制の構築 ★「すみだ文化ゾーン」の積極的なPR・情報発信 ★博物館や美術館等との連携した回遊促進
	Ⅱ-② 世界的な芸術家・北斎に着目した観光的魅力の向上	★すみだ北斎美術館の整備と北斎通りの魅力向上 ★北斎に関わる観光プログラムの充実 ★北斎と墨田区との関係に関する情報発信
	Ⅱ-③ 「両国観光まちづくりグランドデザイン」の推進	★まちの発信力を高めるための施策の展開 ★まち歩き環境の魅力をもつための施策の展開
	Ⅱ-④ 江戸文化を活用した観光プログラムの充実	★関連団体との連携等による観光プログラムの更なる充実 ★江戸・下町文化を継承している地域との連携強化
	Ⅱ-⑤ 江戸情緒を醸し出す景観の創出	★主要観光ルート等における江戸情緒が感じられる景観整備 ★歴史文化公園の整備
戦略Ⅲ 産業と観光の融合	Ⅲ-① 3M運動等と連動した“ものづくり観光”の推進	★3M運動の推進 ★オープンファクトリーによる回遊促進 ★すみだらしい“ものづくり体験”の充実
	Ⅲ-② “ものづくり”のブランド力を活かした新たな誘客	★「すみだ地域ブランド戦略」を活かした観光施策の展開
	Ⅲ-③ すみだならではの食を活用した“まち歩き観光”の推進	★食を活用した回遊促進 ★外国人向けの食の取組みの推進
	Ⅲ-④ 商店街・商業施設と連携した観光プログラムの充実	★商店街や商業施設と連携した回遊促進 ★地域商店街の特色を活かした取組み支援
戦略Ⅳ 水都すみだの再生	Ⅳ-① 水辺空間を活用した賑わいの創出	★水辺の魅力向上による賑わいの創出 ★水辺の観光拠点の整備 ★水辺の観光回遊動線の整備
	Ⅳ-② 舟運を活用した回遊性向上と新たな魅力づくり	★新たな魅力づくりによる観光舟運の活性化 ★観光舟運を活用した区内回遊の促進
	Ⅳ-③ 広域連携による観光舟運の活性化	★東京都や近隣区との連携強化 ★川でつながる地域との広域舟運連携
戦略Ⅴ 観光振興を支える基盤の充実	V-① 安全・安心な観光地づくり	★多言語による様々な情報提供体制等の構築 ★事業者、地域と区が連携した避難体制の構築 ★災害時の観光客等受入れ先の確保 ★防犯カメラの設置等による安全確保 ★ユニバーサルツーリズムの推進
	V-② 次世代の観光まちづくりの担い手の育成	★観光まちづくり読本の作成 ★地域を題材にしたセミナー等の実施 ★学習プログラムの開発 ★キッズサポーター制度の導入
	V-③ 観光客の受入れ体制の強化	★観光案内・ガイドの更なる充実（認定制度等） ★外国人観光客の受入れ体制の強化（人材育成等） ★平和学習・防災学習の拠点づくり ★修学旅行等に活用できる学習プログラムづくり
	V-④ 国際交流の推進	★外国人観光客との交流促進 ★海外からの修学旅行の誘致、区内の学生との交流プログラムの構築
	V-⑤ 公共空間を活用した賑わいの創出	★水辺と周辺空間の一体的な整備 ★河川や道路等の観光活用（イベント等）
	V-⑥ 快適に回遊できる美しい都市環境の充実	★すみだ花の道の整備 ★北十間川・隅田公園観光回遊路の整備 ★まち歩きトイレの整備 ★道路バリアフリーの整備 ★江東内部河川遊歩道の整備 ★オリンピック競技施設周辺等の無電柱化の実施 ★主要道路の景観整備 ★屋外広告物の景観誘導に関するガイドラインの策定・運用
	V-⑦ 主要観光ルートの賑わい創出と魅力の向上	★タワービュー通り等の賑わいの創出
	V-⑧ 回遊性向上のための交通インフラの充実	★自転車利用環境向上に向けた取組み ★区内循環バスや観光舟運の活用
	V-⑨ 情報インフラの充実	★史跡等観光資源の案内表示の充実・整備 ★外国人観光客に対するWi-Fi環境の向上 ★公共サインの情報更新・充実、多言語対応 ★観光拠点の認知度向上と情報発信拠点としての機能強化
	V-⑩ すみだ観光の品質管理	★観光客満足度調査等の実施 ★観光施設、観光資源の磨き上げ ★観光客おもてなし体制の充実

* MICE とは、Meeting（会議・セミナー）、Incentive tour（報奨旅行）、Convention または Conference（大会・学会・国際会議）、Exhibition（展示会）の頭文字をとった造語で、ビジネストラベルの一形態を指すものです。

5. リーディングプロジェクト

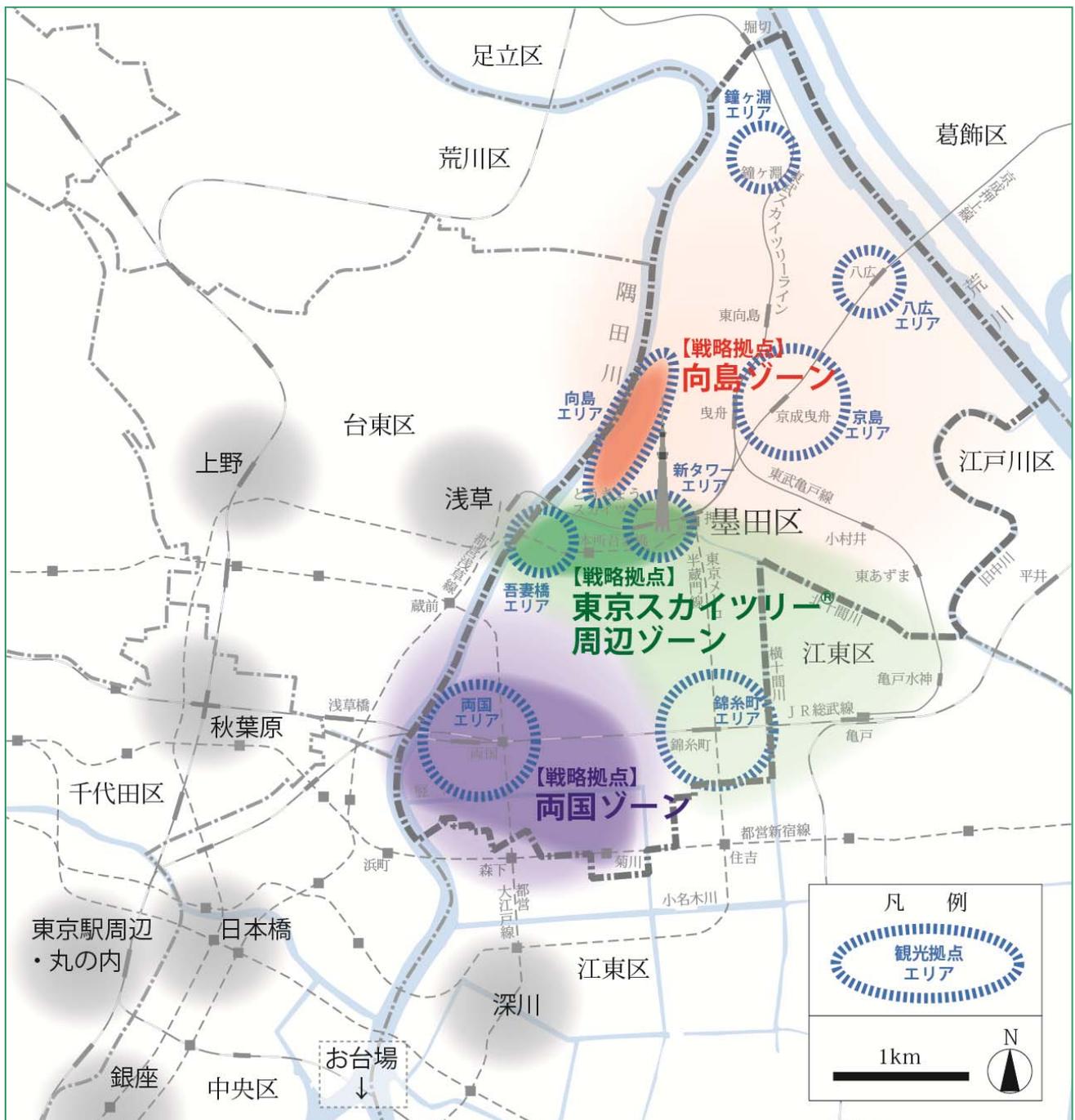
戦略的な視点から墨田区の観光振興を先導するリーディングプロジェクトを定め、これらのプロジェクトの実行を通じて、関連する基本戦略・基本施策の実現化を図ります。

リーディングプロジェクト①

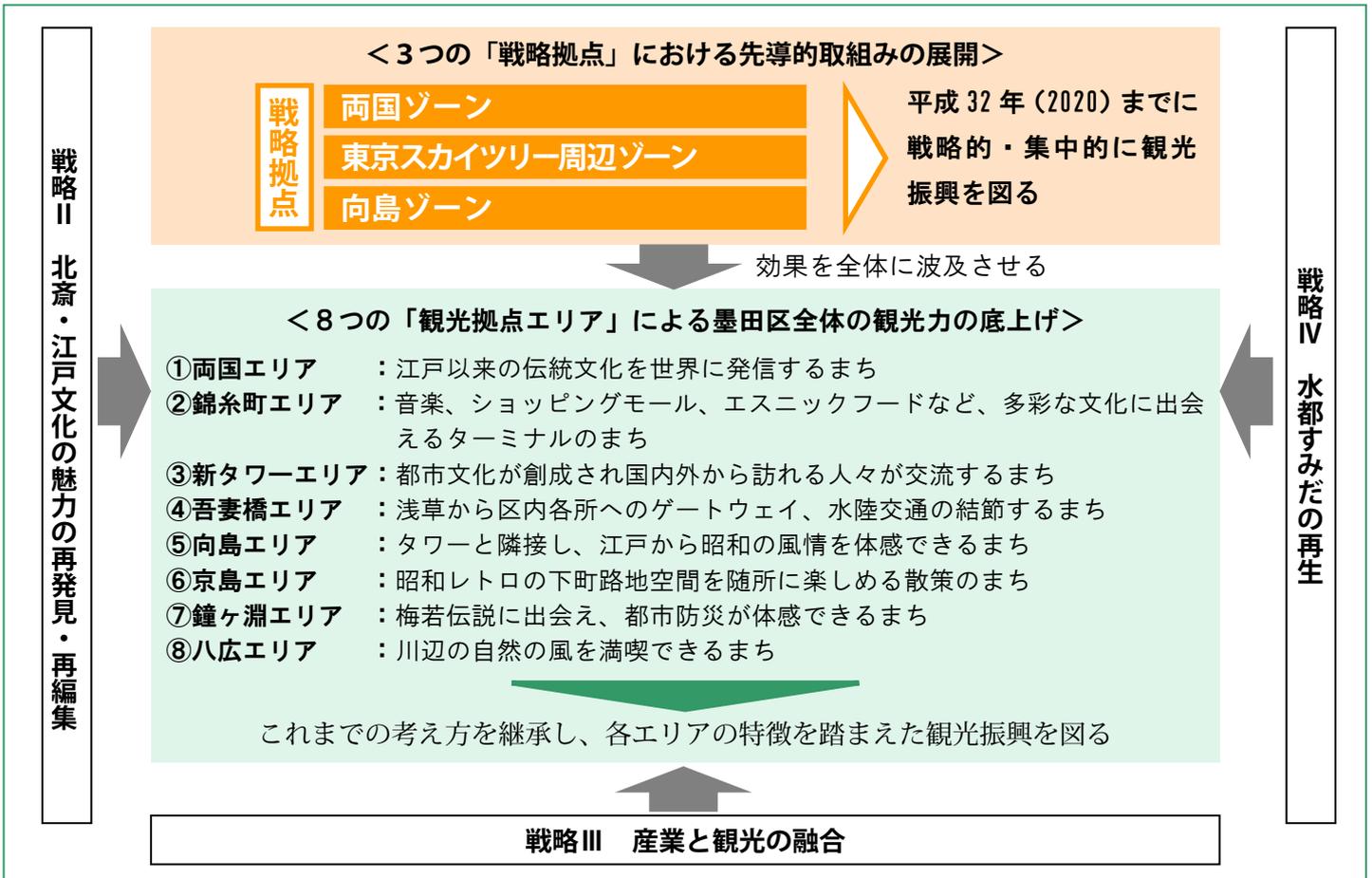
3つの戦略拠点を核とした観光振興の推進と広域連携強化

戦略的に観光振興を特に図るべき拠点（戦略拠点）として、「**両国ゾーン**」「**東京スカイツリー周辺ゾーン**」「**向島ゾーン**」の3つを位置付け、戦略的・集中的に観光振興事業を展開するとともに、関係する自治体・事業者等と積極的に広域連携を図ることで、「すみだ観光」の更なる魅力向上を図ります。

8つの「観光拠点エリア」の中の3つの「戦略拠点」



「リーディングプロジェクト①」の3つの戦略拠点を中心とした観光振興の考え方



リーディングプロジェクト②

「お・も・て・な・し」の展開 ～国際観光都市をめざして～

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催を見据え、墨田区の魅力を対外的にアピールするための取組みや、**ハード・ソフト両面での外国人観光客受入れのための環境整備等を推進**することで、本プランの目標でもある「国際観光都市すみだ」の実現を図ります。



リーディングプロジェクト③

都市トランジット観光の推進 ～移動すること自体が楽しい観光地づくり～

鉄道やバス、船、自転車などの乗り物や、徒歩といった多様な移動手段で区内を巡ることが墨田区の特徴であり、魅力でもあります。このため観光振興にあたっては、交通インフラの更なる充実や景観整備、これらを活用した観光プログラムの開発・実施を図るなど、**移動すること自体が楽しい観光地づくりを推進**します。



6. 実現化の仕組み

(1) 「すみだ観光力」の向上と「すみだモデル」の構築

◆5つの基本戦略と3つのリーディングプロジェクトの展開による「すみだ観光力」の向上

⇒様々な主体が連携しながら、リーディングプロジェクトを中心に取組み、さらに追従するように他の施策に着手することで5つの基本戦略を実現させ、観光力の向上を図ります。

◆すみだ観光を支える「すみだモデル」の構築

⇒これまで実施してきた観光振興に関わる取組みのプロセスを確かなものとし、それを次世代に伝えることで、すみだ観光を支える「すみだモデル」の構築を図ります。

(2) 担い手の役割と育成

◆墨田区観光協会との連携

⇒観光振興プランを進めるにあたり、観光協会と密に連携を図りながら、施策を展開していくこととします。

◆観光振興、観光まちづくりにおける区民参加の促進

⇒区民が区の観光資源や歴史・文化などについて楽しく学ぶ機会の充実を図るとともに、区民が観光振興の担い手になることができるように、活動を支援する仕組みを充実させます。

◆将来のすみだ観光を支える、次世代の担い手の育成

⇒区内の児童・生徒などが墨田区の観光や産業について学ぶ機会やツールをつくり、教育機関との連携も図りながら、次世代のすみだ観光の担い手の育成を進めていきます。

(3) 観光振興に向けた様々な連携

◆産業間の連携

⇒ものづくりや伝統工芸、昔ながらの商店街など、地域に根差した産業が観光と融合することで更なる発展を遂げられるよう、観光に関連する産業との連携をより一層図ります。

◆世代間の連携

⇒墨田区内の児童や生徒、若い世代を巻き込んで、区内の世代間交流の場を積極的につくり、様々な世代が力を合わせて知恵やアイデアを募るとともに、魅力やノウハウを世代間で共有していきます。

◆区内のエリア間の連携

⇒エリアをまたいだ地域テーマやコンテンツごと資源間の連携などを通じて、区内のエリア間の連携を進めます。

◆区外の地域との広域連携

⇒広域連携による観光プロモーションや広域観光圏の形成について、周辺自治体などとの連携を視野に検討を行います。

◆国・東京都との連携による観光振興

⇒国や都の動きと連携・調整を図り、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会までの期間に各施策をスムーズに展開していきます。

(4) 観光振興に向けたプラットフォームづくり

観光に関連する様々な団体・組織が分野・業種横断的に集まれる場、イベント等の情報の集約・一元的情報発信を行う組織として、右図のような観光振興のためのプラットフォームの創設を検討します。

